

製品・サービス動向-国内

■IJJ グローバル：COLLABO de! World を使った遠隔手話通訳サービス「R sign language」の提供を開始

(4月10日)

株式会社 IJJ グローバルソリューション (<https://www.ijjglobal.co.jp/>) (東京都千代田区)は、クラウド型ビデオ会議サービス「COLLABO de! World(コラボ デ ワールド)」を活用した手話の遠隔通訳サービス「R sign language(アール サイン ランゲージ)」を2018年5月下旬より提供開始する。

この R sign language は、サービスは、IJJ グローバルの COLLABO de! World と、株式会社シュアール (東京都品川区) が提供する遠隔手話サービスを組み合わせることで提供されるもの。ビデオ通話を利用するために必要な端末(カメラ・モニター・マイクスピーカーを内蔵した「Cisco DX80」)やゲートウェイ機器、手話通訳サービスをパッケージ化し、月額固定のサービスとして提供する。

月額費用は64,000円(税抜)/台で、端末(レンタル)、インターネットゲートウェイ、ビデオ会議端末保守(送付バック)、障害対応、ヘルプデスク(ビデオ会議端末)、手話通訳サービスが含まれる。なお、初期費用は別途かかる。

昨今、Skype 等のビデオ通話を使った遠隔通訳サービスの導入が進められているが、より高いセキュリティが求められる環境での利用や、手話の細かなニュアンスをより鮮明に届けるには、高品質なビデオ通話を導入する必要があり、多額な初期投資やシステム運用負荷の発生などが課題となっていたのが今回サービス提供開始の背景にあると同社では説明している。

シュアールは2009年に設立。“Tech for the Deaf”というスローガンのもと、IT x 手話サービスを展開している。同社のサービスは、手話通訳の専門技術をもった有資格者により提供し、JR 東日本の主要7駅や成田国際空港ターミナルで利用できるほか、大分県立病院、ナビタスクリニック新宿、金融機関、民間企業に採用されているという。

■NTT テクノクロス：遠隔会議用マイク・スピーカーR-Talk シリーズの新モデル「R-Talk 900」「R-Talk 950」発売

(4月12日)

NTT テクノクロス株式会社 (<https://www.ntt-tx.co.jp/>) (東京都港区)は、遠隔会議用マイク・スピーカーR-Talk シリーズの新モデル「R-Talk 900」「R-Talk 950」を4月20日から販売予定と発表。従来モデルよりコンパクトな新筐体と通話品質を向上するために新たな技術を採用した。



R-Talk 900 (左) と R-Talk950 利用イメージ (右)

(NTT テクノクロス)

R-Talk 900 は、パソコンに USB で接続するだけで Web 会議における快適な音声通話を実現する、Web 会議向けマイク・スピーカー。価格は 50,000 円(税別)。一方、R-Talk 950 は、R-Talk 900 の機能に加え、固定電話・携帯電話・PHS、スマートフォン、タブレット、

パソコンと接続することができ、さまざまなシーンで利用できるマイク・スピーカーとなっている。価格は88,000円（税別）。

R-Talk シリーズは、NTT メディアインテリジェンス研究所の音声・音響処理技術を使用し、高品質・高信頼の音声通話を実現している。

新モデル R-Talk 900 と R-Talk 950 は従来製品に採用していた音声・音響技術に加え、エコーや周囲雑音を除去し、話者の音声を明確に相手に伝える「エコー除去インテリジェントマイク技術」と、ダブルトーク状態でもお互いの声のつぶれや途切れなどによる聞き取りづらさを解消し、同じ場所で会議しているかのようなリアルな音声通話を可能としている「ダブルトークバラストエコーキャンセラ技術」を新たに搭載した。

また、両モデルは USB 端子とオーディオ端子を搭載し、パソコンや携帯電話、スマートフォンなどと USB ケーブルや専用オーディオケーブル（オプション）で接続できる。

さらには、R-Talk 950 は、Bluetooth4.1 と固定電話機接続にも対応している。固定電話にはハンドセットの代わりに接続して利用できる。

その他、A5 サイズよりも小さく、約 400g と軽量のため持ち運びが簡単。ビジネスバックの中でも場所をとらない。

NTT テクノクロスによると、今後、音声認識システムとの連携をはじめとするさまざまなソリューションを提供していく予定という。

■レアジョブ:レアジョブ英会話、WebRTC に対応したレッスンルーム機能を公開、ユーザの手間を削減

(3月26日)

株式会社レアジョブ (<https://www.rarejob.co.jp/>) (東京都渋谷区) は、この度、レアジョブ英会話の新機能「レッスンルーム」の提供を開始した。

新機能レッスンルームは、PC ブラウザ版やスマートフォン・タブレット向けのアプリ内でレッスンの受講が可能となる同社独自のレッスン受講システム。Web ブラウザ上で音声や映像などをリアルタイムにやりとりするための新しい通信規格である WebRTC 技術を採用することで、Skype などの通信シフトのインストールや起動の必要がなく、レッスンをより気軽に受講できるメリットがあるという。加えて、レッスンに必要なあらゆる機能を一画面に収めたことで、ユーザの英語学習がより効率的になります。

レッスンルームの特徴は3つある。

(1) レッスンルームを選択するだけの簡単予約を実現。レッスンの受講方法は



レッスンルームまたは Skype の 2 通りがあるが、レッスンの予約時にレアジョブ英会話のサイト内「レッスン内容確認」ページ (写真上、レアジョブ) で、「レッスンルームで受講」を選択すると、レアジョブ英会話サイト内でレッスンを受講できるようになっている。

(2) 一画面で映像やチャット、教材表示が完結するシームレスなレッスン体験が可能。講師の映像やチャット、教材が一画面上に表示されるため、Web ブラウザと通信ソフトを行き来する複雑な操作が必要なく、集中してレッスンを進めることができる。また、「映像モード」と「教材モード」の表示切替機能によって、教材を使ったレッスンや講師の画面を大きくして口元を見ながら発音の練習も行えるようになっている。

加えて、付属機能である「チャットで使えるフレーズ」はオンライン英会話レッスンでよくある困ったシーンで講師に使えるフレーズ (たとえば、Could you speak more slowly? など) をワンクリックでチャットに引用することも可能。



「映像モード」時のレッスンルームの画面イメージ
(レアジョブ)



「教材モード」時のレッスンルームの画面イメージ
(PC ブラウザ版) (レアジョブ)

(3) 従来の通信ソフトでは難しかったレッスン体験を向上させる独自機能。講師とレッスン中にやり取りしたチャットの内容は、いつでもレアジョブ英会話のサイトから確認することができる。データはレッスン毎に自動保存されるため、講師からレッスン中に送られたフレーズや単語などを簡単に探し出すことができ、レッスン後の効率的な復習が可能となっている。

レッスンルームの利用料金は無料となっている。ただし中学・高校生コースの有料会員に提供する。

レアジョブは、マンツーマンオンライン英会話サービス「レアジョブ英会話」を主たる事業として展開している。2014年6月には東証マザーズに上場し、現在60万人以上のユーザ、1,600社以上の法人企業、160校以上の教育機関などに利用されている。

導入・利用動向-国内

■鈴与シンワート：アセットインベントリーがテレビ会議サービス「S-Port Cloud T Series」を35拠点で導入、テレビ会議の運用コストを1/4に圧縮

(3月26日)

鈴与シンワート株式会社 (<http://www.shinwart.co.jp/>) (東京都港区) は、アセットインベントリー株式会社 (<https://www.asset-inventory.co.jp/>) (千葉県柏市) がテレビ会議サービス「S-Port Cloud T Series」を採用したと発表。

S-Port Cloud T Series はインターネット環境があればすぐに利用できる。またサーバ管理の手間がいらす手軽な料金体系で容易に導入できるようになっている。

アセットインベントリーは、棚卸代行業を含むリテールサポートサービス、データ入力および情報処理、テレマーケティングなど、人手を要するデータギャザリングと情報処理の事業を行っている。設立は1990年で従業員は約800名。

導入前は、同社の全拠点にテレビ会議システムがなく、会議参加者はテレビ会議システムが設置されている主要拠点に行かなければならなかったため、移動によるコストと時間を費やしていた。

今回 S-Port Cloud T Series を35拠点で導入後は各自の席にあるPCから参加できるようになった。これによりたとえば、全地区長会議など全拠点に参加者がいる会議のコストが1/4に削減され、大きな経済的効果を得ることができたという。

加えて、S-Port Cloud T Series は社内LAN経由でテレビ会議が行えるため、6回線の専用回線が不要になり、そこでも大きな効果を得られた。

その他、以前のテレビ会議システムは双方向で資料を共有する機能や、リモートデスクトップの機能などがなく、たとえばリモートでソフトウェアなどの操作

方法を伝えることができなかった。S-Port Cloud T Series によりそれらが可能になったため、テレビ会議サービスだけで遂行できる業務の幅が広がり大きな効率化につながったとしている。

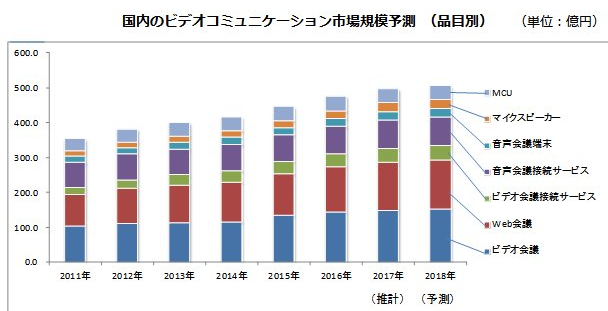
鈴与シンワートは、鈴与グループ唯一の上場企業として大規模情報システムの開発、人事・給与・会計・グループウェア、Web メール、CRM などの業務ソリューションおよびアウトソーシングの提供、データセンター&クラウドサービスを展開している。

市場動向-国内

■シード・プランニング：2018年ビデオ会議/Web 会議/電話会議市場レポート発刊、2018年市場規模は506億円と予測、2017年比102%増

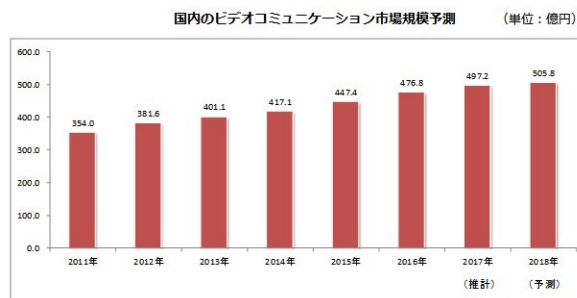
(3月30日)

株式会社シード・プランニング (<https://www.seedplanning.co.jp/>) (東京都文京区) は、国内のビデオコミュニケーション市場(ビデオ会議/Web 会議/音声会議)の将来展望に関する調査を実施し、このほどその結果をまとめた。同市場の調査は今回で15回目という。



(シード・プランニング)

国内のビデオ会議・Web 会議・音声会議などのビデオコミュニケーションの市場規模は、2017年(推計)の497億円から2018年に506億円へ拡大(2017年比で102%増)と予測している。

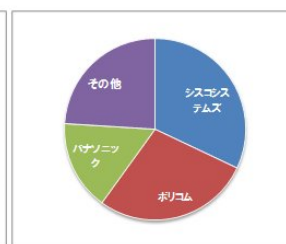


(シード・プランニング作成)

メーカーシェア トップ3:台数

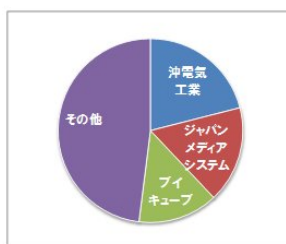


メーカーシェア トップ3:金額

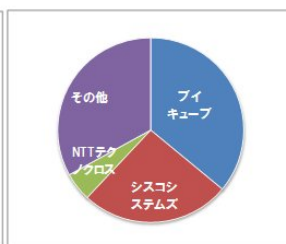


(シード・プランニング作成)

SIタイプ メーカーシェアトップ3:金額

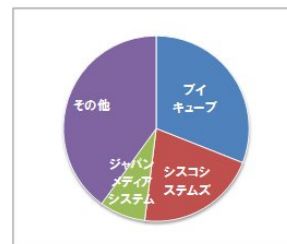


ASPタイプ メーカーシェアトップ3:金額



(シード・プランニング作成)

SI+ASPタイプ メーカーシェア トップ3:金額



(シード・プランニング作成)

(シード・プランニング)

その内、2017年(推計)のビデオ会議市場は149億円、一方Web 会議市場は138億円(SIタイプ:30億円、ASPタイプ:108億円)であった。また多地点接続装置の市場規模は40億円と推定している。

同じく2017年の国内市場のシェアトップについて

は、ビデオ会議がシスコシステムズ、Web会議がブイキューブ、MCUがシスコシステムズという結果になった。Web会議（SIタイプ）は、1位が沖電気工業、2位がジャパンメディアシステム、3位がブイキューブ。Web会議（ASPタイプ）では、1位がブイキューブ、2位がシスコシステムズ、3位がNTTテクノクロスであった。ただし、SIタイプとASPタイプの合計では、ブイキューブが引き続き首位で、その後にシスコシステムズ、ジャパンメディアシステムと続く。

本ポート「2018ビデオ会議/Web会議の最新市場とクラウドビデオコミュニケーションの現状」では、ビデオコミュニケーションの定義・分類から過去十数年の市場変化、製品動向、市場規模・予測、今後の方向性などのほか、54社の企業の動きも掲載している。

調査方法は、直接面接および電話取材、オープンデータの収集。なお市場規模およびメーカーシェアは関連企業へのヒアリングにより作成している。調査期間は2017年12月1日～2018年3月20日。発刊日は2018年3月26日。A4/278ページ。

販売価格は、「書籍版」または「PDF版」が151,200円（税込）、「書籍+PDFセット版」が194,400円（税込）となっている。

PR

(広告掲載順)

■ヤマハ株式会社

USBスピーカーフォン FLX UC 500

https://sound-solution.yamaha.com/products/uc/fix_uc_500/index

■株式会社ロジクール

MeetUp(ミートアップ)ー

ハドルルーム(4~6名程度)に最適な、120度の広い視野角と4K光学にも対応するオールインワンタイプのカンファレンスカム

<http://www.logicool.co.jp/ja-jp/product/meetup-conferencecam>

■株式会社シード・プランニング

2018ビデオ会議/Web会議の最新市場とクラウドビデオコミュニケーションの現状

<<2018年3月発刊>>

<http://store.seedplanning.co.jp/item/9959.html>

セミナー・展示会情報

<国内>

■ブイキューブセミナー情報(4月~6月)

「失敗しない「Web会議」、「テレビ会議」の選び方徹底解説セミナー」、「従来比1/3のコストで導入できる」V-CUBE Box 体験セミナー」、災害現場の今を共有出来ますか? 災害発生の混乱時、意思決定のスピードと質を向上、など

会場(東京・大阪)

詳細・申込: <https://jp.vcube.com/event/all>

■第2回 共創ワークソリューション Forum

日時：4月24日(火) 13:00~16:30(受付:12:30~)

会場：ベルサール飯田橋ファースト ホールA

主催：NEC ネットエスアイ株式会社

共催：Zoom Video Communications,Inc./

ポリコムジャパン株式会社/日本電気株式会社

詳細・申込：<https://www.nesic.co.jp/topics/event/>

■働き方改革（ワークスタイル変革）実践事例セミナー ～コミュニケーション・コラボレーション変革からはじめる働き方改革～

日時：4月25日（水）午前と午後の部あり。内容は同じ。

会場：リコージャパン ViCreA 東京 ショールーム
（東京都中央区）

主催：リコージャパン株式会社

詳細・申込：

<http://www.rioh.co.jp/event/seminar/18K005.html>

国内その他：<http://cnar.jp/cna/event-j.html>

海外その他：<http://cnar.jp/cna/event-r.html>

※イベント情報は随時情報が入り次第掲載しております。

CNAR.jp サイトの情報もご参照ください。

業界の動き

遠隔会議・UC 業界は日々さまざまな動きがあります。この定期レポートの発行は月2回（プレスリリースと取材に基づく記事）ですが、CNA レポート・ジャパンでは、業界の動きに関連した国内外の情報を日々皆さんと共有しています。よろしければご参照ください。

■フェイスブック（遠隔会議&UCトレンドワッチ）

<https://www.facebook.com/unifiedcom>

■Twitter（CNA レポート・ジャパン）

<https://twitter.com/cnarjapan>

■メーリングリスト（dtc-forum）

<http://cnar.jp/cna/dtcforum-ml.html>

アーカイブ電子ブック版

>2003年-2013年：

http://www.catalog-square.co.jp/cna_report/

>2014年-2017年：

http://www.catalog-square.co.jp/cna_ebook/

電子ブック制作：カタログスクウェア株式会社

<http://www.catalog-square.co.jp>

編集後記

読者の皆様へ

いつも定期レポートをご覧いただき誠にありがとうございます。

これまで定期レポートの電子ブックについては、カタログスクウェア（株）の山下さんのご厚意により無償で電子ブック化・アーカイブを行っていただきましたが、現行の電子ブックはFlashコンテンツで構成されるため、2020年のFlash Playerのサポート終了に先じて、2018年3月を以って、新規掲載を終了しなければならなくなりました。

4月以降については、従来CNAレポート・ジャパンで行ってきたPDFのアーカイブを今まで通り継続していきますので、バックナンバー参照にあたってはこちら（下記URL）をご利用いただければと存じます。

2018年3月までの電子ブックは、アーカイブとして引き続きカタログスクウェア（株）のWebサイトに掲載（いつまでかの時期は未定）していただくことになっていますのでこちらもご利用いただければと存じます。

今後とも何卒宜しく願い申し上げます。

デジタルブックに関するお問い合わせ先：

カタログスクウェア（株）

<http://www.catalog-square.co.jp>

CNAレポート・ジャパン 定期レポートPDFアーカイブ：

<http://www.cnar.jp/cna/cnareportarchive.htm>

CNAレポート・ジャパン 2018年4月15日号おわり

ホームページ：<http://cnar.jp> お問い合わせ：cnar@cnar.jp